

第4回パラフットボール体験会記録

- 1 日 時 2021年7月31日(土) 16時~18時
 - 2 場 所 エスパルスドリームフィールド清水
 - 3 参加人数 30人
 - 4 主 催 NPO 法人静岡FIDサッカー連盟、一般社団法人ユース
 - 5 協 賛 株式会社RST、株式会社TRW、株式会社エス・プランナー、株式会社ランドトラスト
明和住宅株式会社、株式会社アレミティ、株式会社ライフプラス
 - 6 協 力 エスパルス、エスパルス福祉基金
- ### 4 内 容

○講演 静岡県初のブラインドサッカーチーム「FC コレチーボ静岡」

『視覚障害とは』

- ・見えること見えないこと
- ・私の見え方
- ・皆さんにお願いしたいこと

○『ブラインドサッカー』って？

- ・視覚障害者と晴眼者が協力して行うスポーツ
- ・ガイドの役割
- ・「ボイ」の意味
- ・ピッチをどのように捉える？

○体験

- ・音を聞いて動こう
- ・指示を聞いて動こう・具体的に指示をしよう
- ・ボールを蹴ってみよう、とめてみよう
- ・PK体験

感想(抜粋)「たくさんの発見がありました」

目の見えない、見にくい方の反対語が、晴眼者ということを知りました。また、視覚障害のかたが、「勇気をもって外出していること」体験から身をもって感じました。

ブラインドサッカーの選手が生き活きとサッカーをする姿はとってもかっこよかったです。

今回体験したように、やってみること、知ることが大切で、視覚障がい者の立場、困難さを理解するために、このような体験会をもっともっと広げていけることを願います。

視覚的な情報を補うためには、具体的な指示が必要である。分かっていた津守であっても「もう少し」や「ちょっと」などの声掛けになっていることに改めて気付かされた。

見えない恐怖が大きく、思うように動けませんでした。ブラインドの選手はまるで見えているかのように動き、サッカーを楽しんでいますすごいと思います。

見える情報がない方が他の感覚をフル回転してスポーツをする姿に感動しました。指示を出す、相手に明確に伝えることの重要性を改めて感じました。曖昧な言葉では伝わらない。相手が必要な情報を伝えることの大切さを考える機会をいただきました。

聴覚障がいの方も、視覚障がいの方もセミの鳴き声とか周囲の音が影響を及ぼすということに驚いた。体験では、自分とボールの距離感がつかみにくく、本当に声や音が重要になってくることを実感した。

ぜひ、パラリンピックも応援したい。

